



# ほんなこてゆたたり



文責 校長 平井 敏博

## 【令和5年度学校教育目標】

大人も子どもも、目指すは“とことん学び続け、とことん学び合う人”  
～生涯学びの基礎づくり～

**「安心して下さい。  
(気合) 入っていますよ。」**

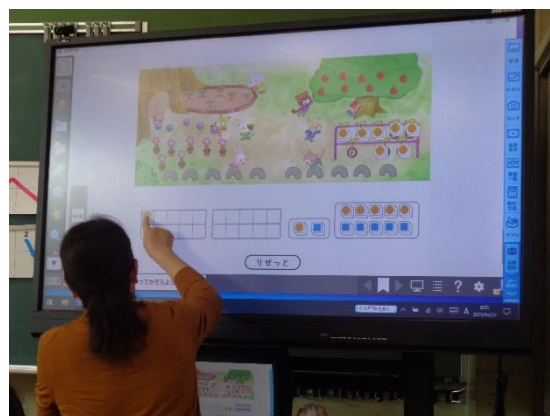
～子ども達、先生方のがんばりに刺激されています。～



1年生の算数の時間です。ものの数を、ブロックに置き換える作業です。具体物→半具体物→数字と進んでいきます。とても大事な作業です。5のかたまりを意識できることもとても大切です。(7は、5と2でできているとか。)この時期、じっくり、しっかり、この作業をしていきます。

電子黒板も、フル活用です。子ども達の教科書と同じものを拡大表示し、作業の仕方を、ていねいに説明されていました。

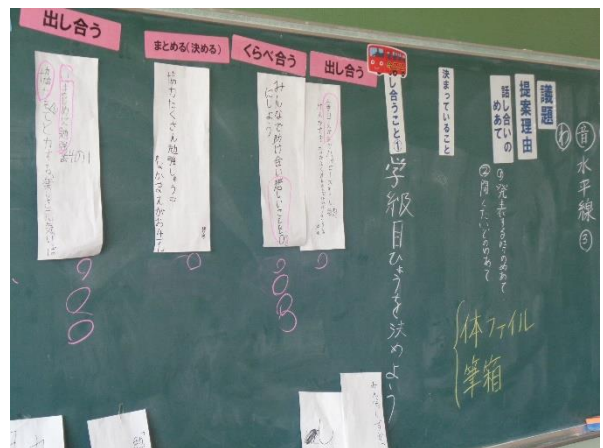
子ども達の興味・関心をひきつけ、かつ、1時間(45分)の授業を成立させるには、かなりの専門性が必要です。子ども達の様子に目を配りながら、学習内容の“肝”をしっかり習得させなければなりません。背中ですっかり子ども達の様子を感じながら、指導されている様子にあらためて刺激をもらいました。





2年生では、国語科の音読発表会がありました。音読といっても、個人やグループ、全体で、等、バリエーション豊富にやっています。この時間は、ビデオ撮影もしながらの活動でした。ビデオ撮影で、一気に関心・意欲、集中力が高まっていました。この“しかけ”が、とても重要なのです。

4年生の教室黒板には、学級会の板書が残されていました。議題は、「学級目標を決めよう。」でした。各人の考えが、しっかりと紙に書かれて出されており、あちらこちらに、指導者側の工夫も見られました。子ども達に活動を保障し、子ども達に任せる場合、指導者のお膳立てや黒子役としてのサポートが不可欠なわけです。



5年生の国語科の授業では、タブレットを使った音読活動がなされていました。ヘッドセットを付けて、チャレンジし、採点までできる仕組みです。それぞれのペースで、確実な伸びが期待できます。読んだり、書いたりしながら、自分の持っている力を精一杯発揮している様子が見られました。

紙面の都合で、今回は、全学年、全学級を紹介できませんでしたが、どの学級の子ども達も、どの先生方も、気合が入っていました。「ボーっとしているんじゃないよ！」と喝を入れられた気持ちにもなりました。子ども達、先生方が、それぞれの持ち味を思う存分、発揮しまくる学校で、かつ、しっかりとまとまった学校を目指し、がんばります。保護者の皆様、地域の皆様とも、率直な意見交換ができる関係をつくっていきます。なにとぞ、よろしくお願いいたします。